

三笠ジオパークにおける炭鉱遺構の調査・保全 Investigation and preservation of old Coalmine in the Mikasa Geopark

新居 忠浩^{1*}; 栗原 憲一²
NII, Tadahiro^{1*}; KURIHARA, Ken'ichi²

¹ 三笠市企画経済部企画振興課政策推係, ² 三笠市立博物館
¹Promotion Policy Division, Mikasa City Office, ²Mikasa City Museum

三笠ジオパークのエリアである北海道三笠市は、明治の初期に石炭が発見されたことにより炭鉱まちとして栄えた地域であり、現在もなお、炭鉱施設の遺構がいくつも存在している。

こうした地域資源の活用を模索するため、ジオパーク活動の進展と同時に炭鉱施設の遺構に関する建築学的評価を行い、それに基づき、北海道最古の立坑櫓である旧幾春別炭鉱錦立坑櫓ジオサイトの保全として、散策路の整備や解説板設置などの環境整備を実施した。

そこで、ジオパーク内における資源の保護と活用の具体例として、遺構の評価に関するプロセスやそれに基づく整備の実施について紹介したい。

キーワード: 炭鉱, 遺構, 保護と活用, ジオパーク活動, 三笠ジオパーク
Keywords: coalmine, remains, preservation and reuse, geopark activity, Mikasa Geopark